

ブンと」

「あんた仲々云ふ事が細いな」

「サアどうぞ奥へお通り、何も御座りませんがほんの口汚し何も御馳走が御座りません、イ、エ、其の様に御厄介を掛けましては濟みまへん、妾の方の御酒には毒が這入つて御座りまへん、酒はずれはせん物どうぞ、左様なれば折角の御心配、一ツいたゞきます、盃洗から盃を取つて私に呉る、私が飲んで姉さん貴女も一ツどうぞだす、妾は餘計はいたゞけまへんがお相手致します、向ふが飲んで私に呉る、私が飲んで向ふへ差す遺つたり取つたり仕てる間に相手の女子はん目の邊がほんのり赤うなつて櫻色、私は色が黒ふてほんのり櫻の皮色」

「けつたいな色やなア」

「甚ふ永居を致しました、これでお暇致します、そらどうでお歸りにならぬとお宅には角の生へるお方が御座りますねやろ、あほらしい宅に角の生へる者は御座りまへん、雨が降つたらデン／＼虫とナメクデラが角を生します、そんなら今晚お泊りやすな、ウワイ」

「オイ船頭はん、何とかしてんか」

「モシ貴方、そら何んだす」

「へエ、お女中を此所へ乗せて大阪へ歸つた時の心積りだす」

「えらい心積りやなア」

「お客さん、お女中の荷物や」

「オツト、何方も障りなはんや私が預ります、大阪へ歸つて一盃よばれる是が手付や、何方もけるい事おまへんか、一べんあやかる様にいたゞかして上げまへう、イヨウと、頭の上へ釣ておこらう」

「ハイ／＼、何方か知りまへんが御親切に年寄を……」

「モシ、貴方の相手のお女中が來やはりましたで」

「姉はんどうぞ此方へ、イヨウ……こら何や甚い婆さんや、オイ船頭はん、お女中は」

「ハイ、其のお女中をお頼申します」

「オイ、此の人お婆んやないか、お前お女中やと云ふたやないか」

「ハイ、お婆んでもお女中ぢや」

「私、こんな皺苦茶婆さん嫌いや」

「貴方、膝の上へ乗せて抱いて大阪まで行きなはれ」

「否だんがな、何所ぞ其の邊に座わらして上げなはれ」

「誠に濟みまへんが、妾の荷物を取つとくなはれ」